



かわむらこどもクリニック院長

川村 和久さん

昭和53年、杏林大医学部卒業。
国立小児病院新生児科、日立総合病
院新生児科などを経て、平成5年に開
業。日本外來小児科学会、宮城県・
仙台市小児科医会理事を務める。
気仙沼市出身、54歳。



幼児持つ母の不安、ネット情報で和らげる

「診察の傍ら、ボランティア
アでインターネットによ
る情報提供活動を始めた
きっかけは。」

川村 勤務医として新
生児医療にかかわってい
たころ、障害がある子や

未熟児を出産した母親の
失意と不安の姿を目の当
りにし、ただ病気を治
せばいいのではなく、心
のケアをしてあげること
の大切さを痛感しまし
た。そこで開業に際し、

「お母さんの不安・心配
の解消」を理念に掲げた
のです。手始めに月刊の
院内誌を発行しました
が、これだけでは利用者
が限定されてしまうと感
じ、10年前に医院のホー
ムページ（HP）を立ち
上げ、小児科ミニ知識を
掲載。その後、専用アド
レスで医療相談の受け付
けも開始しました。

小児科ミニ知識、医療相
談の利用方法は、またH
Pアクセス実績は。

川村 小児科ミニ知識
は、子どもによく見られ
る症状や病気を85項目に

わたって分かりやすく解
説しています。アクセス
は昨年6月に100万件
を超えました。また、医
療相談は、病気の子ども
を抱えたお母さんから吐
き出された気持ちの受け
皿的な役目を果たせれば
と思っています。今まで

ド検索が可能なので、新
たに相談する前に上手に
使ってください。

日本HIS（ホスピタリテ
ィー&アイデンティティ
システム）研究センターの
ヘルスケア情報誌「コンク
ルで、病院広報企画賞と特
別賞をダブル受賞されまし
たね。

川村 広報誌に限ら
ず、病院の広報活動の取
り組みや姿勢、効果を総
的に評価する「病院広
報企画賞」では、当院の
理念に基づいた活動が長
年継続され、多くの方々
に利用いただいているこ
とが認められ、うれしく

ミニ知識ともにキーワー
ド検索されています。Q&A
掲載しています。Q&A、

「Q&Aコーナー」に
掲載しています。Q&A、

思っています。

小児科医不足が深刻で
す。相談を通じて感じる
小児科医療の問題点は。

川村 見ず知らずの医
者にメールでわざわざ相
談する方が多いのは、病
院で説明を受けたけれど
不安や心配がとれない、
でも患者が多かったでさ
え多忙な小児科医には突
っ込んで聞きにくいとい
う雰囲気があるからでし
ょう。医師はその母親の
気持ちに寄り添ったコミ
ュニケーションを心掛け
るべきです。

医療法人 社団
かわむらこどもクリニック
青葉区高松1-16-1
022-271-5255
http://www.kodomo-clinic.jp